

令和3年度 第1回美術館運営協議会会議録

- 1 日 時 令和3年7月27日（火）  
午前10時30分～午前11時50分
- 2 開催場所 豊田市小坂本町8丁目5番地1 豊田市美術館 講堂
- 3 出席者 [委員]  
井上 瞳 栗田 秀法 塚本 哲也 玉田 宏美  
杉村 圭介 平野 敬一 大杉 達一郎 中井 久美  
中根 理 木下 翔 (以上10名)  
  
[事務局]  
高橋 秀治 田境 志保 北谷 正雄  
塚田 恵理子 小川 滉一 (以上5名)
- 4 会議の経過 館長あいさつ、委嘱状交付、会長不在のため職務代理者（井上委員）が議長を行うことを確認後、議事録署名人を職務代理者自ら含む2名（大杉委員）指名した。続いて、令和2年度の実績を報告した後、各委員より意見を聴取した。
- 5 会議内容  
事務局：令和2年度の実績報告について  
資料1「年報No. 25(令和2年度)」により、  
前年度の展覧会概要、作品貸し出し実績、教育普及活動、観覧者数などの利用実績について説明  
  
議長：説明が終わりましたので、皆さんからのご意見やご質問をお聞きしたい。  
  
委員：美術館の利用実績約20万人の内、豊田市民の利用人数のデータはあるか。  
教育普及について、臨時休館中のオンラインコンテンツ「おうちで楽しむ豊田市美術館」の内容、周知の方法、対象を伺う。  
  
事務局：豊田市民の利用人数は把握していない。資料2・3のアンケート結果の住まいのうち豊田市内の方の割合を参考にしてほしい。コロナ禍では、県外の割合が少ない傾向があった。

委員：アンケートでは、来館者の属性は収集しているのか。広報に使えると思う。

事務局：来館者属性は収集している。

事務局：「おうちで楽しむ豊田市美術館」のコンテンツは、臨時休館中で来館できない方のために、過去の展覧会の記録映像等をオンラインでご覧いただけるように設定し、当館ホームページ上で周知を展開した。

委員：今後も続けてください。

委員：年報の内容で、自治区内の衣丘小、童子山小が見学をしているがどのような内容なのか。郷土資料館では、博学連携で地域学習がなされている。豊田市美術館では、小・中学校での連携は広げていくのか。年間パスポートの利用率は「わが青春の上社会」展では全体の0.8%だが、「ボイス+パレルモ」展では10%とある。この差について分析しているか。

事務局：来館した時に開催している展覧会を見学している。コロナ禍のために、大幅に展覧会内容が変わったため年間パスポートは、令和2年4月11日から販売休止した。「わが青春の上社会」展では、すでにお持ちの方の利用のみとなり年間パスポート利用率が低くなった。「ボイス+パレルモ」展では開幕と同時に年間パスポートの販売を再開したため、年間パスポートの利用率が増えた。例年は、年間パスポート利用率は10%ほどとなる。

事務局：学校との連携は当館としても積極的に行っていきたい。心に残る記念事業では、教育委員会と調整して豊田市美術館に来る参加校を募っている。10年以上前には市内小・中学校は美術館学習をしていた。希望があれば、当館のガイドボランティアが来館前の事前学習で学校に出向いていた。再開に向けて努力していきたい。教員向けの研修をはじめ、学校、児童生徒との関わりは今後も積極的に検討していく。

委員：以前は市がバスを出し、市内の小学校4年生と中学校2年生は豊田市美術館を見学していた。現在は経費削減で行われていない。中学校3年生が心に残る記念事業のコンサート鑑賞後、希望した学校のみ同館に来館することになっている。一時期は同館が事前に学校に出向き事前学習を行っていたが、最近はこのような啓発が少ない関係で、教員が児童生徒を同館に連れていきたいと思う者が減っていると思う。中山小学校より北部の学校は、年10回スクールバスを使えるので、この仕組みをうまく利用すれば来館

の機会も作れるのではと思う。

委員：年報に関して、博物館法上に規定されている調査・研究の項目がないのはどうしてか。展覧会ごとに学芸担当と庶務担当が記載されているのはチームワークが良く、大変よろしい。ただし、多くの館には巻末の職員名簿がまとめられているが、それがない。加えて、委員名簿もない。年報が記録だとすれば、これらがあつたほうが良いのではないのか。企画展の記録に関して、折角なので広報活動や、関連記事があつたほうがよいのではないのか。研究紀要はかつて刊行していたと思うが、現在はどうなっているのか。

事務局：ご指摘の件は、今後なんらかの形で反映していきたい。  
研究紀要は、毎年ではないが継続して発行している。

委員：展覧会の内容について、「デザインあ展」は、過去になく若年層が多く、初めての来館と口コミでの来館も多い。知人等からも、家族で観覧して非常にためになる展覧会だったと聞いている。若年層の来館が多くなったことは狙いに合致しているのか、初めての来館が非常に多いが、このような企画展を予定しているのか。口コミでの来館が25%だが美術館で何か来館者への仕掛けを行ったのか伺いたい。

事務局：「デザインあ展」は、若年層のみならず全世代を対象に一度は美術館に足を運んでほしいと思い開催したので、当館の目的が十分に果たせたと考えている。コロナ禍で日時指定、事前予約制により開催した。そのため、当初の目標の半分以下の来館者となり残念だった。全ての会場で撮影可としていたため、これがうまくいきSNS投稿で拡散されたのではと考える。

委員：以前「クリムト展」を開催した際に、複数の交流館でボランティアのアートフレンドが展覧会に関する事前講座を行っていた。これに参加した地域の方から、豊田市美術館へ行くことへの敷居が下がったと聞いた。交流館によく来る子育て後の女性や、開催中の「モンドリアン展」を難しく考えるような方向けに、展覧会の説明をする場があると来館者が増えてよいのではと思う。美術館には茶室、素敵なレストランとそこで提供される展覧会関連のデザートやパンの宣伝のためにも交流館を活用してもらえると良い。同館のホームページはきれいだが、一般の方が行きたいと感じるようなページではなく、敷居が少し高いと感じる。また、他の美術館では、ミュージアムショップの商品も購入できるのを見かけた。

事務局：アートフレンドは当館ガイドボランティアの中の自主活動グループ。当館は直接関わっていない。展覧会前の事前講座は当館ガイドボランティアも行っているが、現在は、コロナ禍のため控えている。ホームページを管理する担当者はあるが、デザインは業者に委託している。改変の時期が来たら、新たなものにする。インターネットの世界は変化が激しいので、数年前に作ったホームページも古く見えてしまう。時代に沿った魅力のあるデザインにして多くの方に見てもらえるよう努力していく。

委員：「わが青春の上社会」展におけるまちなかとの連携について、まちなか宣伝会議主催のサポーター店の割引利用実績が27件だった。緊急事態宣言が発出されていた時期の取組で、飲食店の休業により実績が低かった。過去に開催された展覧会での実績としては、「クリムト展」では10,138件、「ブリューゲル展」では279件だった。コロナ禍で物理的に難しかったとは思いますが、豊田市美術館との連携した発信の仕方を見直したい。「デザインあ展」では、SNSと口コミで来館者が集まっている。インスタグラム等のSNSは取り組んでいるのか。

事務局：当館は、ホームページとツイッターを行っている。インスタグラムは行っていない。

議長：何を見て来館したいと思ったかというアンケート項目において、豊田市美術館ツイッター、同館ホームページ、その他のネット・SNSと回答した方の合計は、「デザインあ展」が30%、「わが青春の上社会」展の方は18%となっている。同期間に行った展覧会でも展覧会内容によって広報を変えていくことが必要だということが明らかになったといえる。

議長：委員には、なぜ今まで豊田市美術館に来たことがないか、率直に同館の良いところ、悪いところなどを伺いたい。

委員：わたしは住まい、勤務先から距離があることから、豊田市美術館周辺に来ることがあまりない。同館が何を行っているか調べる気もない。子どもが、同館関連の資料や冊子を持ってきたことがあるかもしれないが見ていない。絵には全く興味がない。もし、絵の金額が、作品と共に展示があれば金額の根拠や作家に興味を沸かすかもしれない。借用作品の場合も借用金額の表示があると興味が出ると思う。

委員：美術館には、その絵がなぜ展示されているか、色々な方にわかりやすく説明

する義務がある。小さいキャプションを読んでくださいだけでは、一般の人の興味はなかなか向かない。

事務局：全国の公立の美術館で作品の価格、借用の価格を表示している館は皆無。価格から絵を見るのは、一つの見方ではあり、ギャラリートークでは、興味・関心を高めるために価格をお伝えすることはある。つまり、教育普及の一つのツールとして使える。作品の評価額は時代によって変動するが、所蔵作品を実際に売ることはないので、明示は難しい。市民には作品が自分たちの財産だと理解してもらえよう説明、広報することが当館に求められる。

議長：評価額に関する斬新な意見をいただきありがとうございます。

委員：「ボイス+パレルモ」展の関連事業のオンラインレクチャー第1回では、1,165人が視聴している。実際にわたしも聴講したが、素晴らしかった。緊急事態宣言等の理由で、遠方から来られない方のために継続するとよい。素晴らしい内容であれば、無料から有料に切り替えても見たいと思う方はいると思うし、来館にもつながると感じた。課題を3点挙げる。時間通りに始まり、終わるということが必要。次に、万人向けにすること。チャットに関して、愛好家の投稿が目立った。投稿の扱いを考えた方がよい。開催時間は聴講対象ごとに配慮が必要。有料アーカイブ配信も可能だと思う。オンラインであればアクセスできる方、美術や豊田市美術館に興味をお持ちの方への配慮も必要。同時に、オンラインでは参加できない方への配慮の必要性を感じた。

事務局：オンラインだと終了時間が、長引いてしまうことがある。今後の課題としたい。開催時間帯だが、これまでの講堂での講演会は、日中に開催されていたため、昼間お仕事がある方も聞けるようにあえて午後7時に設定した。チャットについては、レクチャー中に簡単にご意見をいただきながら、それを参考に講師に進行の学芸員が質問する形式で試行した。今後より良い方法を探していく。オンラインレクチャーは、新しい可能性を切り開くものなので積極的に取り組みたい。

委員：作品を先入観なく見せるためかもしれないが、作品とキャプションが離れている。また、キャプションが小さい。

事務局：おそらく「ボイス+パレルモ」展のときのことかと思うが、作家の意図も

あり空間全体で見せるためにあえて作品とキャプションを離している。キャプションやその文字が小さいのは作品の邪魔にならないぎりぎりの大きさを意識している。

議長：以上で本日の議事をすべて終了する。